

令和4年度 総合福祉学科・介護福祉学科 面接指導

令和4年6月2日(木)実施

「伝えたいこと」と「伝え方」

総合福祉学科 3年 古藤 由女

面接指導の直前ほど緊張しましたが、仲間と励まし合い、褒め合い、アドバイスをし合いながら本番を迎え、先生方から多くの助言を頂きました。

「伝えたい」と思っている、うまく言葉に出来なければ相手には伝わりません。「伝えたいこと」を明確にした上で、言葉の引き出しを最大限活用する必要性を実感しました。

また、介護福祉学科の2年生と合同でやることで、アピールポイントの焦点の違いを感じました。

3年間の学びを「自分の将来像」に結びつけ、自分の強みを自分の言葉で表していきます。表現の仕方はもちろん、表情なども意識しながら、相手に「伝わる」言葉にしていきたいと思えます。

履歴書の書き方や内容をもう一度見直し、「伝える」「伝わる」事を心がけ、就職活動に挑みます。それぞれが違う方向へ向かっていきますが、3年間培ってきた絆を糧とし、全員が自己実現できるよう、手を取り合って進んでいきます。

ご指導ありがとうございました。

「面接指導を終えて」

介護福祉学科 2年 田邊 天修

私はこの面接指導を通して、面接の厳しさを改めて感じました。高校時の面接とは違い、社会で自分自身がどう通じるのか考えさせられるものでした。

特に、どのような人材なのかを見極める面接官側の様々な質問には、頭の回転が追いつかず大変でした。本番前の練習で受けた質問とは全く違い、スムーズに話すことはできませんでしたが、ご指導のおかげでどのような回答をすればよいかなどを学ぶことができました。

また質問の受け答えだけでなく、礼をする角度・声のトーンなどの礼儀も学ぶことができました。ここで学んだことは、これからの生活でとても大切なことだと感じたため、面接以外でも活かしていこうと思いました。

今回の面接指導で学んだことを全面的に出し、アピールできる部分は自信を持ってアピールしていこうと思います。

ご指導して下さった理事長・校長先生をはじめ、面接官の先生方本当にありがとうございました。



令和4年度 専門学校静岡電子情報カレッジ2年生 面接指導

令和4年5月19日(木)実施

「面接指導を終えて」

音響&映像メディアクリエイイト学科 飯塚 天音

今回の面接指導では、校長先生を始めとして様々な先生に違った角度からご指導をいただきました。

事前に友達と練習をし、準備はできていると思っていましたが、いざ、その場に立つと緊張し少し詰まってしまうこともありました。

しかし、これが今現在の自分の実力だと感じると共に、本番の面接では改善するようになければと思う良い機会となりました。

その中でも、一番残っているのは「自分の強み」についてです。

校長先生より「これだけは誰にも負けないことを持つ」という話をいただきました。それがあることによって履歴書だけでなく、面接においても悩むことなく、企業に対して自分を売り込むことができます。面接指導に向けて履歴書を書く際に「自分の強み」は何なのかを深く考えていましたが、今後の就職活動では「人に負けないもの」という視点で考え、もっと自分を企業に売り込めるようにしていきます。

今回の面接指導でのご指導を活かして、志望企業での内定を勝ち取り、夢を実現できるように頑張ります。

「企業研究の大切さ・難しさ」

ITゲーム&ロボットシステム学科 後藤 和真

今回の面接指導に臨むにあたり、まず履歴書・身上書作成に取り組みました。これまでの学校生活を振り返り、自己PRには自分なりに『自信』が表現できたと思います。

しかし、業界研究、企業研究を進める中で、一部の企業だけ情報収集をしても、その企業の業界内での位置づけやコア・コンピタンスがなかなか見えてきません。会社説明会に積極的に参加して情報収集を図ることの重要性を痛感し、就職活動の大きな課題を見つけることとなりました。面接指導本番では、他人の面接を客観的に見ることで、自分自身に足りないものが見えてきました。話の内容だけでなく、基本となる礼法、話し方、表情など、他者から学ぶことが数多くありました。

今、就職戦線の真ただ中、面接だけでなく社会で生きていく上で重要なこと、また全世界が共通して取り組むSDGsの目標を取り入れながら就職活動に活かしていきたいと思えます。



近況報告 = 入院体験 =

静岡福祉医療専門学校 顧問 神田 均

コロナが収束しないまま3年目の入梅の季節になった。

相変わらず連日のニュースの中では、21世紀にはもう起きないと思っていた戦争(ロシアのウクライナ侵攻)が、またしても起こったことには唯々おどろいた。

○特に先の大戦(軍口少年として)を体験した人間としては他人事とは思えない。

○特に私などあの戦後長い間、戦争の傷跡をその福祉の仕事に従事する中で徹底して体験された。

○人生長く生きていると思わぬ体験もすること、この程コロナ禍中での検査入院体験を拙文(別紙)にまとめた。

コロナ禍での入院雑感

今年のゴールデンウィークのさなかには私は突然発症した。

それは10年前一週間程検査入院したものと同様、絶食と栄養点滴で自然治癒を図った症状と同じような「痛くもかゆくもない」「大腸憩室出血」と言う病気である。

しかし長引くコロナ禍の中で、当初は果たして病院が受け入れてくれるか心配したが、事前に病院に電話し、救急医療の型で、諸検査をした上で4人部屋の1人となった。

① 暖かな医療看護の実態

病床の1人となった私が、最初に感じたのはやはり、コロナに対する院内の予防対策の徹底振りであった。

患者は4人部屋であっても、それぞれカーテンで囲われ各自のベッド上だけですべてを処理する。ベッドの下にポータブルトイレ、廊下にも出られない完全な密閉生活である。

病室内に入ってくる看護師等も、すべて目元だけしかわからない完全なる予防服姿である。

しかし患者に接する看護師さんが、業務を終える毎に「ありがとうございました」と言うのである。本来は患者の方から発する言葉なのに、常に先取りされている。それは看護師だけでなく、その他の人でも皆同じである。

私にはやがてその「ありがとう」の一言が灑し出す、暖かい人間関係を短期間に構築する、「魔法の言葉」のように感じられた。

② 患者個々への総合医療体制

私が入院した市立総合病院は、勿論全診療科目のある病院であるので当然のことではあるが、入院後それぞれの患者に対してあらゆる部内(診療、看護、リハビリ等)が、個別メニューで対応してくれるのに気がついた。

10年前の入院では感じられなかった患者中心の総合医療体制である。

③ 密閉生活の中の内者時間

今回の私の2週間の入院生活はある意味では異常な体験であった。

特に今回私はベッド上でテレビを見ること(他の患者も同様)も、新聞を読むことも、持ち込んだ本をも読まない、外界からの情報を一切断つての生活である。私が92年の人生行路の中で、外国旅行以外では、初めての体験であった。廊下側のベッドであった



CANジャーナル

2022
令和4年
7月号

学校法人 中村学園
専門学校 静岡電子情報カレッジ
静岡福祉医療専門学校

ので、空外の天候の日々の様子が、昼夜の区別さえも、ほとんどわからないような生活であった。

すると私の頭の中に、次々と幼児期、青少年期、成人期と、それぞれの時代の風景が映像となって流れて来たのには、全くおどろいた。人間の体験はこうして深く頭の中に「きざみつけられている」のかと、同時に私は今のところ認知症の傾向がない事に、内心ホッとした。

④ 志太平野と富士山の展望

入院して10日目に、私は初めて歩行リハビリを兼ね、看護師さんに付添われ(まるで重病人扱い)病棟6階の廊下の東端から空外を見た。その時は夕暮れであった。私が入院後初めて見た、院外の景観である。

眼下の薄暮の中に、志太平野が一望に広がり、はるか東方(焼津方面)に、北から南に重なる低い山脈のはるか上空に「ポッカリ」と「青い夏の富士」が浮かんでいた。それは一服の墨絵のような景観であり、しばし私はその絵に立ちつくした。

⑤ 自宅でのリハビリ

今回の入院で、改めて自愛させられたことがある。それは人間にとって行動の自由が出来ず、ベッド上で2週間も生活させられた私の身体状況である。

病気とは思えない症状でも、重病人扱いされれば、こうも人間は基礎体力を奪われてしまうのかと…。

私は10年前のときと比較してしまう。あのときは検査入院で、病院の内外自由に行動でき、今回とは全くちがう。

あのときはまだ80歳代、今回は90歳代で、10年以上老齢の身である。

人間はどうもいつでも若いときのように考えていることに、後になってようやく気がついた次第である。

子ども心理学科2年生 保育実習Iを終えて

令和4年6月6日(月)～令和4年6月18日(土)

「保育現場から学んだこと」

子ども心理学科 小松 美結

私は初めての保育実習の中で、多くの学びと課題を見つけることができました。実習を通して、傾聴するということはもちろんのこと、子どもの行動の裏にある理由を聞いてあげる声掛けをすることが大切だということを知りました。「どうしたの?」と声を掛けることで、子どもは話を聞いてもらえると安心感を持ち、話そうとしてくれると感じました。また、「どうしたらいいかな?」と問いかけることで、子どもの気持ちを尊重することができ、その子自身でどうするのかを考えて決めることができると感じました。

今回の実習では、年齢や性格に沿った対応ができないことが多く、子どもに寄り添った保育の難しさを感じました。例えば、よくない行動を注意した時に、私の声掛けが逆効果になってしまい、その行動がエスカレートしてしまうことがありました。この経験は今後の課題とし次回の実習に向けて、今回学んだことや反省を活かし、学校での勉強に励み子どもへの理解を深めていきたいと思ひます。

実習の時期に想う ～ profession への途上 ～

進路室長 橋野 幸男

各学科とも「実習」真っ盛り、そんな時期の皆さんに、ある小説の一節を紹介します。

砥上裕将『7.5 グラムの奇跡』は、水墨画家でもある著者の第2作で、新米の「視能訓練士」が主人公です(2021年10月発行、講談社)。文芸評論家・北上次郎さんは、「日本経済新聞」夕刊の『目利きを選ぶ3冊』欄で、次のように評しています。

— ようするに、視能訓練士とは単に検査するだけの技師ではないのだ。患者が隠していること、患者自身も知らずにいることを探り出す探偵なのである。これは、野宮恭一青年の成長とその真実を鮮やかに描く連作長編だ。眼科青春小説だ。

そんな同書から、好きなシーンを一つ引用します。広瀬先輩から「もう、そろそろ、野宮君一人でも検査はなんでもできるでしょ」と言われた彼が自信なげな応答をすると、先輩はこう語りかけます(p.230)。

— 勉強しなければいけないことはいっぱいあるし、己惚(うぬぼ)れては駄目だけれど、まったく自信を持っていないというのもプロとしてはよくないことだよ。

— その自信と疑いとの間でバランスを取って、一つ一つの仕事に向かっていくことが大切。どっちかだけじゃ駄目。どっちもあるとミスが減る。

— 大変だよ。でもそれが仕事だから。疑いながら、自信も持って。さあ、患者さんだよ。この「仕事」を「実習」に替えたなら、「プロ」への途上にある皆さんへのアドバイスにもなるのではと思いますが、いかがでしょうか。

ついでに、「プロ」→「**プロフェッション profession**」(専門職)や「**プロフェッショナル professional**」とは、何でしょうか。公益社団法人日本技術士会の「**技術士プロフェッション宣言**」(2007年1月)のなかに、『**プロフェッションの概念**』として以下のような記述があります。

- ① **教育と経験**により培われた**高度の専門知識及びその応用能力**を持つ。
- ② **厳格な職業倫理**を備える。
- ③ **広い視野で公益を確保**する。
- ④ **職業資格**を持ち、その職能を発揮できる**専門職団体**に所属する。

社会的に不可欠なサービス・公益、養成教育機関、国家試験・資格、職能団体、そして倫理綱領。これらが、ある職業が専門職かどうかを判定するうえでの基準です。そもそも「profession」などの語源は、ラテン語の「professere」=「pro-(～の前で)」+「fessere(告白・宣誓する)」。かつてヨーロッパの修道院や神学校では、学業・修練期を終えたと証明された者は、公衆の面前で、「自分はこれまで学んできたことを、人々のために使います」と宣誓(profess)したそうです。

皆さんも同じような途(みち)を歩んでいるのだというプライドを持って、実習や日々の学業に臨んでください。

◇オープンキャンパス	◇スペシャルオープンキャンパス
7/ 9 (土) 13:15～	① 7/23 (土) 13:15～
9/10 (土) 13:15～	② 8/ 6 (土) 13:15～
9/22 (木) 17:00～	③ 8/20 (土) 13:15～

AO入学選考エントリー受付中！ 夏休みスペシャルオープンキャンパス開催

企画広報室 高橋 達也

卒業年次の方々にとっては就職活動も本格化していき、今後の人生を決める大切な時期がやってきます。各自で体調管理に努め、良い結果に繋がるよう頑張りましょう。

さて、本学では6/1(水)より「AO入学選考のエントリー受付」を開始しています。例年、エントリー者の中には、『先輩に聞いた』『オープンキャンパスで先輩たちが優しくて入学したいと思った』等、嬉しい声を耳にします。皆さんが受験した際はいかがでしたか?進路決定に向けて色々悩んだり、エントリーシートや願書提出の時は緊張したり…みんな色々なことを考えながら過ごしていたと思います。高校生の方々もそんなドキドキと共に学校見学に来たり、オープンキャンパスに参加したりしています。在学生の皆さんにもアシスタントをお願いする機会がありますので、本学で会った際には是非、やさしく激励の声をかけてあげてください。

また、7月、8月は夏休みスペシャルオープンキャンパスを開催します。スペシャルオープンキャンパスでは、在校生や卒業生、企業の方々にも協力をいただき、将来目指す仕事、職業についてより深く知っていただく機会にしたいと思います。在校生の皆さんにも参加していただき、体験授業のサポートをお願いする予定です!皆さんの後輩や知り合いの方で、「将来、電子情報/福祉医療の分野を目指したい!」という方がいましたら、是非オープンキャンパスへの参加を勧めてください。一緒に楽しく体験授業に参加しながら、進路を決定していければ良いですね。私たちも、将来の希望に溢れている高校生の方々が本学に来てくれることを、とても楽しみにしています。皆さんの力で、中村学園を更に盛り上げていきましょう!

7月の行事

- 1日(金) 2TW・CW第3期実習 ～23日(土)
- 2日(土) 床面清掃
- 3日(日) B検①
- 8日(金) 漢字能力検定
- 9日(土) オープンキャンパス 13:15～
- 14日(木) CP卒業生を囲む会
- 16日(土) 社会人常識マナー検定JapanBasic
- 18日(月) 海の日
- 21日(木) CP面接指導
- 23日(土) SPオープンキャンパス 13:15～
- 25日(月) 1TW・CW第1期実習 ～8/6(土)
- 28日(木) J・B検CBT 16:30～